

第 6 5 回（令和 6 年度第 1 回）学長選考・監察会議議事要録

日 時 令和 6 年 8 月 1 日（木） 1 0 時 0 0 分
場 所 K K R ホテル名古屋 4 階 菊の間
出 席 者 委員 7 名
第 1 号委員：鵜飼裕之、鈴木文三郎、坂野幸彦、福谷朋子
第 2 号委員：岩山 勉、矢島正浩、伊藤俊一
陪 席 者 中川監事、太田事務局長、前原総務・企画部長、伊原総務課長

開 会 1 0 時 0 1 分

議事に先立ち、事務局から学長選考・監察会議規程等資料に基づき、学長選考・監察会議に関する概略説明があった。次いで、事務局から本日の日程の説明があった後、本日出席の委員数が確認され、会議成立が宣言された。次いで、第 6 4 回の議事要録について確認した。

議 事

1. 議長、議長代行者の選出について

事務局から委員の任期及び成立要件について確認説明があり、次いで、学長選考・監察会議規程第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員の互選により鵜飼裕之委員が議長に選出された。次いで、議長により本日出席の委員数が確認された。その後、学長選考・監察会議規程第 5 条第 2 項の規定に基づき、議長が春日規克委員を議長代行者に指名した。

2. 学長の業績評価について

議長から提議され、次いで事務局から、今回の学長の業績評価の実施（業務執行状況の確認）に係る評価資料の説明があった。続いて、学長から「令和 5 年度の大学運営の取組及び業務の実績」等について、「令和 5 事業年度に係る業務の実績の概要」に基づき、特記事項、成果及び課題に関し発言があった後、委員から学長への質問等ヒアリングが行われ、委員から以下の意見等が出された。

- ・地域連携については、市の施設を活用するなど一層の連携を進めていただきたい。
- ・附属学校の卒業生には広く活躍している方が多くいるので、様々な人材の活用が考えられる。
- ・教員採用試験が早期化され 3 年生が受験できることについては、教員教育という点で様々な影響があるため、引き続き関係する機関としっかり話し合っていただきたい。
- ・学校現場での教科指導でない学校教育の課題の対応に向けては、本学の教育支援専門職養成課程と学校教員養成課程がチームを組み連携できるような仕組みを整えていただきたい。

ヒアリングが終わり、学長が議事会場から退出後、業務執行状況の確認が行われ、全体として、適切に執行されていると判断された。

なお、確認結果の通知文については、原案を事務局で作成後、書面会議にて第 6 6 回学長選考・監察会議を開催し、内容を確認することとした。

3. 今後の予定について

(1) 学長の再任方法と任期について

議長から提議され、次いで事務局から、令和5年度に行った現学長の再任審査に関し、再任の選考過程及び任期について資料に基づき説明があった。次いで、議長から、次期の学長選考プロセスについては、令和5年度に行った現学長の再任の方法等を踏まえ、各委員の意見を聴取しながら検討し進めたいこと、学長の任期については中期目標・中期計画期間との兼ね合いを考慮する必要がある一方で、昨今は事業継続性が大学に求められていることから、様々な観点から検討していく必要がある旨の説明があった。

また、学長選考・監察会議において議論を重ね、学長とは独立した機関として学長選考プロセスを構築することが必要である旨の補足があった後、委員へ意見聴取が行われ、以下の意見が出された。

- ・ 現行の4年任期後の再任による2年任期という制度は、4年間の業績評価を行ったうえで残り2年間でさらに取り組んでいただく仕組みは非常にいいと思う。
- ・ 可能性として任期の幅を持たせる制度があってもいいと思う。

次期の学長選考プロセスについては、議論を重ね十分な検討が必要であることから次回以降の学長選考・監察会議においても引き続き議論することとし、これを承認した。

(2) 令和6年度の審議スケジュールについて

次期の学長選考に向けプロセスの見直しを行う場合の検討スケジュールの確認も含め、事務局から令和6年度の学長選考・監察会議の開催について口頭で説明があり、これを承認した。

閉 会 11時49分